

小 児 科



診療科動画



診療科HP



1. スタッフ

診療科長 (教授) ^{なかむら きみとし} 中村 公俊
 准教授1名、講師1名、
 特任講師2名、助教4名、
 特任助教3名、
 診療助手6名、医員10名

2. 診療科の特徴、診療内容

当科では、小児慢性特定疾病の対象疾患を中心とした小児科領域全般の診療を担当している。固形腫瘍・白血病の診断と治療、造血幹細胞移植、腎臓生検や腹膜透析導入、神経疾患の核酸医薬品治療、心臓カテーテル診断・治療、膠原病の分子標的薬治療、内分泌代謝疾患の早期診断、酵素補充治療、複数の専門領域にわたる集学的治療などを行っている。さらに、国際、国内治験、臨床試験に参加し、全国実態調査に参画し、エビデンス構築に貢献している。具体的な領域として、①代謝疾患、②遺伝性疾患、③先天異常、④血液疾患、⑤内分泌疾患、⑥腎疾患、⑦神経・筋疾患、⑧膠原病、⑨思春期疾患、⑩新生児疾患、⑪循環器疾患を専門とするチームが対応に当たっている。救急・集中治療、消化器疾患、肥満、重心、免疫不全、感染症等の疾患にも対応している。

3. 診療体制

○外来診療体制

月曜日 新来：中村 三洵 田村
 再来：中村 三洵 岩井 阿南 (正)
 松本 田村 (午前) 橘
 火曜日：新来：小篠 松尾 宮村
 再来：澤田 小篠 橘
 松尾 永松 笹岡 宮村
 鎮静外来 (担当者は日替わり)
 水曜日 新来：松本 鋏田 田村
 再来：岩井 阿南 (正) 田村
 松本 鋏田 仲里 (午前)
 楠木
 木曜日 新来：松尾 宮村
 再来：澤田 小篠 松尾 宮村
 阿南 (浩) 笹岡
 金曜日 新来：中村
 再来：三洵 中村 阿南 (正)
 鋏田 田村 (午前) 山下
 仲里 (午後) 永松 (午後)

○病棟診療体制

月 教授回診、病棟カンファ
 火 NICU カンファ

水 教授回診、病棟カンファ、ジャーナルクラブ、NEJM 専門医抄読会 (第3週のみ)
 症例検討カンファレンス、周産期カンファ
 木 新生児回診、
 循環器カンファレンス
 金 血液腫瘍カンファ、腎カンファ

4. 診療実績

○疾患別の延べ入院患者数 (2023 年度)

※新生児 (NICU/GCU) については
 周産母子センターの項を参照

血液・腫瘍	114 名
急性白血病	
固形腫瘍	
悪性リンパ腫	
ドナー	
その他血液・腫瘍	
腎疾患	62 名
ネフローゼ症候群	
慢性糸球体腎炎	
慢性腎不全	
先天性腎尿路奇形・他	
膠原病	68 名
若年性特発性関節炎	
全身性エリトマトーデス	
血管炎症候群	
その他、自己免疫生疾患	
内分泌・代謝疾患	61 名
甲状腺疾患	
副腎疾患	
糖尿病	
視床下部下垂体疾患	
代謝疾患	
骨形成不全	
その他の内分泌疾患	
神経・筋疾患	116 名
免疫介在性神経疾患	
筋ジストロフィー	
脊髄性筋萎縮症	
てんかん	
その他神経・筋	
循環器疾患	49 名
先天性心疾患	
心筋疾患、その他	
肝・消化器疾患	8 名
その他 (感染症など)	9 名

(各診療グループ延入院患者数)

○主要な疾患の治療実績（成績）

*新生児

NICUでは、超早産児、重症呼吸不全、重症新生児仮死、重症代謝異常患者に対して、高度医療を24時間体制で提供している。NICU退院児についてもきめ細やかなフォローを行っている。（周産母子センターの頁参照）

*血液・腫瘍

血液疾患、固形腫瘍疾患を中心に診療を行っている。末梢血幹細胞移植・骨髄移植・臍帯血移植などを数多く実施している。

*腎疾患

慢性腎炎の治療はカクテル療法などを行うことにより、一部の例を除き良好な経過を得られている。慢性腎不全には腹膜透析を行っている。

*循環器疾患

先天性心疾患・心筋疾患・不整脈疾患の精査、管理を中心に心臓カテーテル検査・治療、心臓MRI、CT、RI等様々なモダリティを活用した診療を行っている。

*内分泌疾患

副腎疾患、糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、汎下垂体機能低下、低身長、思春期早発症・遅発症などに加え、NICU管理を必要とする性分化疾患、新生児内分泌疾患等に対応している。

*代謝性疾患

日本国内でも数少ない先天代謝異常症に対応できる専門施設として、積極的に患者受け入れを行っている。

*肝・消化器疾患

先天性の肝臓疾患・消化器疾患に外科と連携して対応している。

*神経・筋疾患

てんかん、脳性麻痺、筋ジストロフィー、脊髄筋萎縮症などの神経、筋疾患を中心に、発達障害についても対応している。

*膠原病

外来管理を中心に診療している。若年性特発性関節炎やSLEなどの難治性リウマチ性疾患に対し生物学的製剤を導入し良好な経過を得ている。

○検査の実績等

血液疾患の診断のための骨髄・髄液検査・各種画像検査、腎疾患の診断・重症度判定のための腎生検・腎盂尿路造影検査・分腎機能検査、内分泌負荷試験、新生児マス・スクリーニング等による先天代謝異常症の診断、遺伝子診断、心臓カテーテル検査心臓MRI検査等を行っている。

5. 高度先進的な医療の取組

臍帯血移植、小児悪性腫瘍・血液疾患の治療に関する研究、慢性腎炎の発症機序に関する研究、慢性腎不全患者の生活の質にかかわる研究、新しい免疫抑制剤による腎疾患の治療に関する研究、再生医療に関わる研究、先天代謝異常症のスクリーニングに関する研究、希少難病の治療薬開発研究などを行った。

6. 臨床試験・治験の取組

先天代謝異常症、内分泌疾患、新生児疾患等の臨床試験・治験を行っている。具体的には、1型糖尿病、高アンモニア血症、ウイルソン病、ムコ多糖症、低身長症、新生児低酸素脳症などの治療に関する国内・国際共同治験に取り組んでいる。それ以外の分野についてもこれまでに臨床試験・治験を行ってきた実績がある。

7. 地域医療への貢献

当科は天草、水俣、人吉、八代、玉名など熊本県内の各地方の地域医療の研修が充実した関連病院に専門医・指導医を配置しており、熊本県下の新型コロナウイルス感染症の対応等について積極的に行政と協力して取り組んでいる。地域医療では、乳幼児健診、発達、予防接種など総合診療の能力が必要とされるため、小児科研修では専攻医が経験すべき教育訓練体制を提供している。このように鍛練された医師が派遣されることで、予防医療や健診業務など病気だけでなく、地域全体の小児の健康増進に寄与している。更には、関連施設として国内有数の規模をもつ重症心身障がい施設があり、重心児の医療に貢献している。当科では、世界的に高度な医療を提供すると同時に、熊本および周辺地域の施設と連携し、専門技量を有する人材を派遣し、地域に根差した医療の提供を行っている。

8. 医療人教育の取組

小児患者ならびに患者家族への基本的な姿勢、児童の心理、発育発達などを理解した対応等の基本的知識を基軸として総合的バランスの取れた小児科医の育成を行っている。関連病院小児科と連携し、段階をおって一般小児診療、専門診療（血液腫瘍・代謝内分泌・腎臓・神経・循環器・膠原病）、小児救急医療、新生児医療の各分野に適した人材を育成している。小児科専門医研修プログラムに従い研修を行うことで、小児科専門医の取得し、各専門分野が設けている専門医取得プログラムへと移行する。臨床研究あるいは基礎研究への道も用意されており、幅広い分野で活躍できる人材の育成を可能としている。病院だけでなく行政（熊本市、熊本県、厚労省、PMDAなど）、海外を含む研究施設などで活躍する人材を排出している。

9. 研究活動

- (1) 難病の早期診断方法の開発研究
- (2) 代謝異常症の新規スクリーニング技術開発
- (3) iPS細胞を用いた難病再生医療・創薬研究
- (4) 内分泌疾患のメタボローム解析
- (5) 次世代シーケンサーを用いた診断技術開発
- (6) 腎炎発症機序についての研究
- (7) 神経難病に対する病態解明
- (8) 早産児の急性期における循環動態の解明
- (9) 小児循環器疾患に関する新規診断技術の開発